

統合型小中一貫校の教育課程におけるキャリア教育

～小中一貫教育の機能を生かした取り組みの工夫～

1. 設定理由

統合型小中一貫校である『長狭学園』では、「地域の次代を担う活力ある長狭っ子の育成」を目指している。小中一貫校の機能を生かした9年間の意図的・計画的な活動を工夫し実践していくことが、教育目標を実現するためには欠かせない。9年間を見通したキャリア教育を推進していくことで、変化の激しい社会の中でも生き抜くことのできる力を育むことができると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

自己の生き方を考える力を育む指導において、長狭のヒトを教材として取り上げ、自分とのかかわりを考えさせる視点をもった振り返り活動を意図的に設定すれば、地域を身近に感じ、夢や目標に対する自分自身の姿を見つめ直すことができるだろう。

3. 研究内容

志を立て、自分の生き方を追求し、自立できる生徒を育成することをねらいとして、以下の4点を9年間を通した一貫カリキュラムの中で実践する。

- ①仲間・異学年との交流や地域に学ぶ学習活動を展開する。また、挨拶運動や行事、地域ボランティアの活動などを通して、人や地域と関わる場面をつくる。
- ②生き方教育(キャリア教育)や校外学習を計画的に実施し、それを通じて、自らの適性を知り、夢や目標を持って進路選択できるようにする。
- ③学校行事や学年行事の発表会を通して、自信を持ち表現できるようにする。
- ④「学校運営評議員会」の機能を生かすとともに、学校支援ボランティアの活動を充実・拡充し、地域の教育力を結集した学園づくりをする。

4. 結論

- ・責任や自覚について考えたことで、日々の生活の中で自学を行ったり、時間を守って行動したりするなど、責任感や自覚を持って生活できるようになった。
- ・地域の方を招いて授業を行ったことで、地域の方が持つ地域に対する思いについて触れ、地域を大切に思う思いを持つことができた。
- ・1/2成人式、立志式において、保護者に向かって自分の主張を宣言するという活動は、保護者に我が子の成長を知らせる良い機会となり、学校の進路指導・キャリア教育への理解を深める場となった。